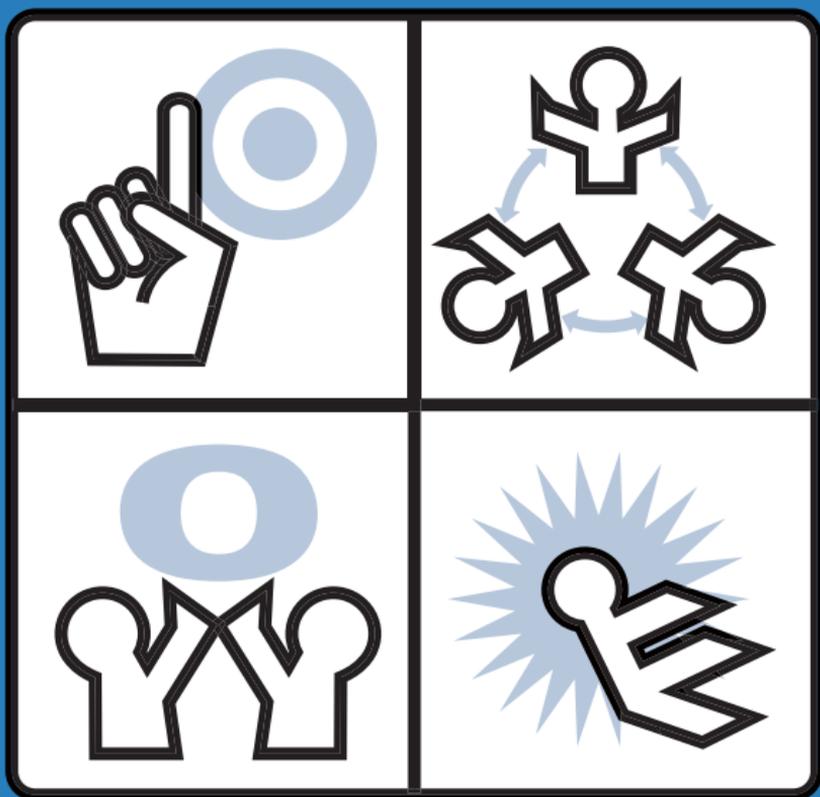


重大労災防止の行動指針



働く者の全員参加で
安全を築こう！

2009年6月

「重大労災防止の行動く者の全員参加

JR連合は、安全確立を最重要課題に位置づけて運動を展開しています。そして、働く者の安全を確保することが、ひいては鉄道全体の安全性向上にもつながるとの認識に立ち、JR、グループ会社、協力会社のすべての社員を含めた取り組みとして、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の活動に着手しました。

JRの仕事は常に危険と隣り合わせにあり、今なお、作業者が労災で死傷する痛ましい事故が続いています。JR連合は、企業や組合など所属や立場の違いを超え、働く者の全員参加で、力を合わせて職場からの安全を築くことが大切だと考えます。



動指針」を活用し、 で安全を築こう!

JR連合はこの運動の第一歩として、まず、職場における重大労災を撲滅するために、「重大労災防止の行動指針」を策定しました。このハンドブックは、指針のポイントをまとめたものです。あくまでも働く者の立場に立って策定し、仕事の前や、合間で一息ついた時などに確認し、皆さんに考えていただきたいこと、実践していただきたいことを記載しています。仕事を行ううえでの「安全の目標やヒント」として捉え、仲間の皆さんで、この内容を参考に安全について話し合ってみてください。自分や仲間の命や身体を守るための運動にご参加いただきたいと思います。

現場で働いている方々が参加し運動しなければ、職場からの安全の確立にはつながりません。このハンドブックを活用いただき、所属や立場を超え、働く者の全員参加で安全を築いていきましょう!

1. 仕事を「見る」「見られる」ことを 気をつけよう!



仕事の前に確認しよう! 仕事の合間に思い起こそう!

● 作業の指揮者や責任者の方へ

- ・ 作業者の安全の状態を見えていますか? 仕事の内容を把握していますか?
- ・ 指示なく作業が進んでいませんか? 作業に無理はありませんか?

● 作業者の方へ

- ・ あなたの安全は誰かに見られていますか?
- ・ 指示されたこと以外の仕事をしようとしていませんか?

● 見張員の方へ

- ・ 見張こそ何よりも大切な仕事です!
- ・ 打ち合わせは万全ですか?
列車順序や遅れは把握できていますか?
- ・ わずかな不安も必ず確認、危険を感じたら列車を止めよう!





なぜ必要なのか、何をするのか

線路内や線路に近接した場所、あるいは電気の通っている活線や活線に近接した場所での作業、高所での作業、車両所や変電所などの危険箇所における作業で発生している事故の多くは、「誰も見ていなかった」「知らないうちに作業をしていた」など、責任者や同僚も知らないままに、作業者が単独で、作業指示の内容とは別の作業をしたり、入ってはならない箇所に立ち入ったりすることによって発生しています。

こうした事故を防ぐためには、単独では仕事をしないこと、自分の仕事が安全に進んでいるかを誰かが見ている、危険を感じたら注意してもらって作業環境をつくること、見張員や監督員を担当する方は、どんなに忙しくても作業を手伝わないこと、絶対に別の仕事をしないこと、自分の役割に専念することなど、作業に没頭してしまう前に、安全に仕事のできる環境になっているかを確認することが大切です。

仕事を見られることは、自分がチェックされているようで嫌な気もしますが、「安全が保たれているか」を見てもらっていると考えましょう。作業指揮者や責任者の側も、何よりも「安全に仕事が進んでいるか」を見るのだと認識してください。

- 指揮者・責任者の皆さんは、作業の安全を見守ってください!
- 作業者の方は責任者が指示した作業内容に徹しましょう!
- あなたの仕事を「誰も知らない」「誰も見ていない」状況が一番危険です!
- 見張員や監督者は一番大切、その業務に専念してください!

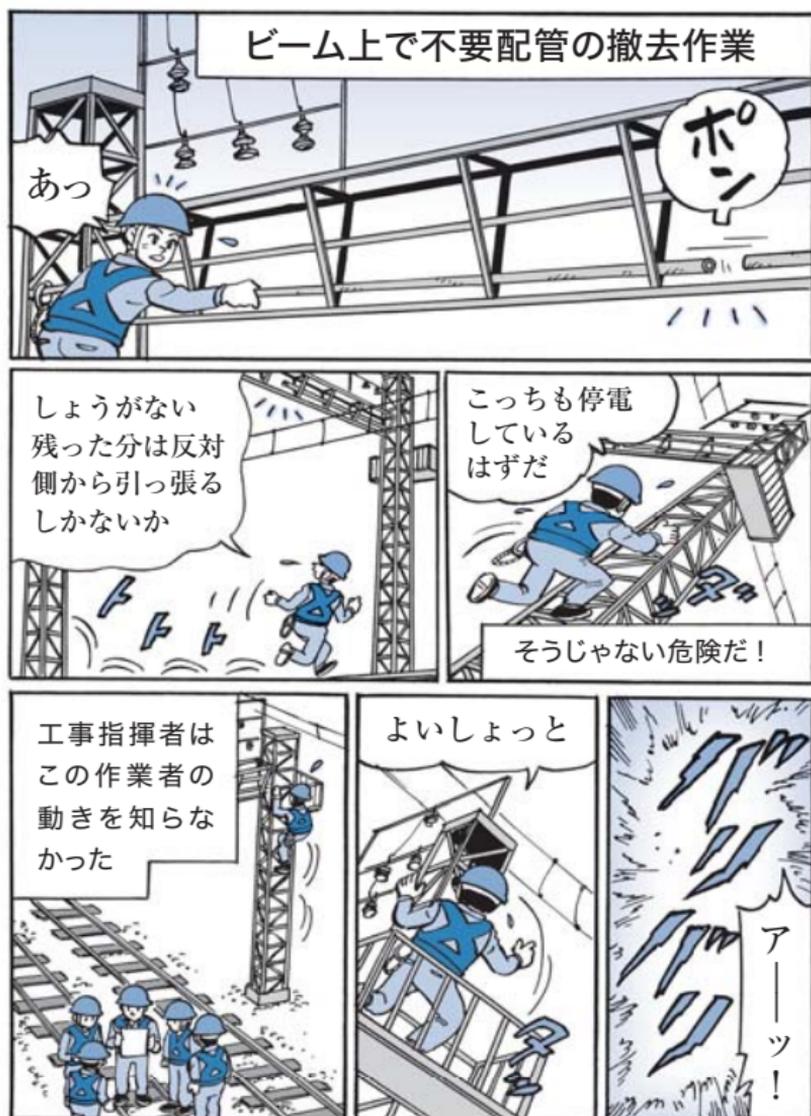


過去にはこんな悲劇が発生しています!

A線における感電死亡事故

当該の作業員は、電柱上のビームの不要配管を撤去していました。電柱上の高圧配電線は、片側は停電、もう片側は通電状態にありました。通電側での作業予定はなく、電気作業用の保護具は着用していませんでした。通電箇所・停電箇所の確認も不十分だったといえます。

作業員は停電している高圧配電線側の電柱上から配管を引き抜こうとしましたが、管が途中で抜けたため、反対側の電柱に上り、そこで高圧配電線からの引下げ線に触れて感電し、命を落としてしまいました。なお工事指揮者は、この動きを知らませんでした。



2. 急ぐ時、慌てる時こそ一息置こう!



仕事の前に確認しよう!
仕事の合間に思い起こそう!

- 急ぐ時、慌てる時こそ一息置きましょう!
 - ・ たとえ仕事が遅れても、とにかく安全確保が最優先です。
- 「いつもやっていること」を一度疑って、決められた手順を確認してみてください!
 - ・ マニュアルや内規のルールと違っていませんか?
まず決められた通りにやりましょう。問題があれば改善を求めましょう!
- 万一事故が起きたら同じ事故が起こる危険はありませんか?
 - ・ 救護作業には注意して、周りからも声を掛けてください!

急ぐ時こそ一息置いて確認





なぜ必要なのか、何をするのか

作業時間が限られる中で、仕事を間に合わせるために急いだり慌てたりするのは当然です。しかし、急ぐ時や慌てる時にこそ、事故が多発していることも事実です。安全をおろそかにしてまで急ぐ必要はありません。決められた手順を守らなかったり、所定の仕事が終わらないうちに、誰にも断らずに、単独で次の仕事の段取りに取り掛かって事故に遭遇したケースもあります。

作業前に、あるいは作業の合間に一旦立ち止まって、安全の確保を考えましょう。一人で焦らず、誰かに相談したり助けを求めること、作業責任者から、節目節目に慌てるよりも安全を最優先するよう伝えることなどが重要です。次の段取りをする場合は、必ず責任者に断り、指示を受けてください。

● 「慌て作業」「急ぎ作業」時にこそ立ち止まらしましょう！

誰しも効率的に、少しでも楽に、早く仕事を進めたいと思うのは当然です。しかし、効率的かどうかは別にして、マニュアルや内規でどのように定められているかを確認し、危険が潜んでいないかを考えてみましょう。そうした「近道行為」が原因で、重大労災が発生しています。事故が起きてからでは遅いのです。

● 作業手順やルールを再確認してみましょう！ 「近道行為」には危険が潜んでいます！

感電事故や触車事故が発生した際に、一步間違えば、救助者も二次災害に巻き込まれる危険が高かったようなケースもあります。緊急事態にも、触車や感電などの危険はないか、しっかりと確認することが非常に重要です。周囲の者が注意することも必要です。

● 救助する者が二次災害に遭わないために！

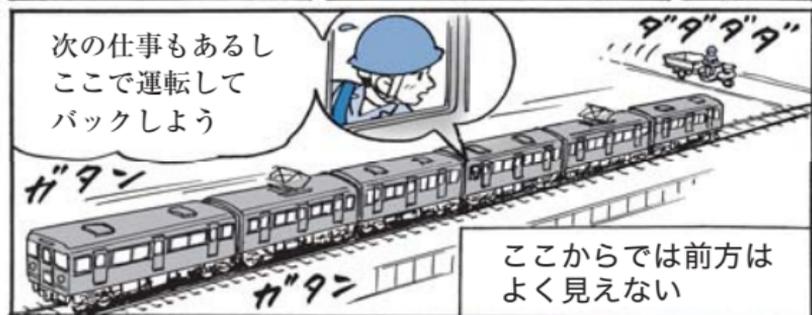


過去にはこんな悲劇が発生しています!

C車両基地構内における触車死亡事故

構内運転士は3両編成の電車を別の3両編成の電車と連結した後、反対側へ引き上げる入換作業を行っていました。連結後、本来は先頭車の運転台に移動すべきところ、後の作業も気になり、中間の運転台から、前がよく見えない状態で推進(バック)運転をしました。

この電車が動いた先の構内通路には、ちょうど清掃作業員が運転するゴミ収集用の三輪自動車が近づいていました。そして、電車と、一旦停車をせずに線路上を通過した三輪自動車がと出会い頭に衝突し、作業員は命を落としてしまいました。



3. 仕事を始める前にはよく考え、準備万端に!



仕事の前に確認しよう! 仕事の合間に思い起こそう!

- **仕事の前に段取りをつけ、自信を持って仕事を始めましょう!**
 - ・ 仕事の内容、自分の役割をしっかりと理解し、安全最優先で作業に着手しましょう!
- **思い違いやミスをしても、事故につなげないためにどうすべきかを考えましょう!**
 - ・ 危険な芽はできるだけ摘んで、注意事項を集中化しましょう!
- **始業や休憩後に事故が多発しています!**
 - ・ 仕事の始めに一息置いて、まず、作業の安全を考えましょう。





なぜ必要なのか、何をするのか

作業の内容や流れ、安全確保の状況などがわからないままに仕事を始めるのは非常に危険です。事前の打合せのミスなどで、停電していると指示された箇所が、実際には通電していて感電事故が発生したり、単線で次の列車の来る方向を間違えて理解していたために触車事故に遭遇したりするケースが起こっています。とくに、始業時や昼休憩後など、作業に着手した時に事故が多く発生しているのが実態です。

自分の役割と段取りをよく理解して、自信を持って仕事に臨むことが重要です。仕事に自信があれば、たとえアクシデントが発生しても、少しでも落ち着いて対処できるはずです。また、仕事の着手時にこそ、必要な手続を確実に行うよう心掛けましょう。

このほか、どの職場でもKYTなどを行っていますが、マンネリ化しているとの指摘があります。人間が複数のことに注意するには限界があります。

安全を確保するには、自分からその日の作業上の危険を考えて、本当に危険な箇所に注意を払うこと、それ以外の事項には、万一、思い違いやミスをしても、少なくとも事故につながらないように、段取りを整えておくことなどが大切です。

仕事に不安を感じたら、一旦、落ち着いて考え、仕切り直してみましょう。一人で考え込まずに、わからないことは、責任者や他の仲間に聞くようにしてください。

- 作業に着手する時は、作業の安全を再徹底しましょう!
- 自ら危険を考え注意や段取りの再確認をしましょう!
- 事前準備を確実に、自信を持って仕事に取り掛かりましょう!



過去にはこんな悲劇が発生しています!

E駅構内における感電死亡事故

当日はE駅構内で碍子取替作業を行う予定でした。工事指揮者は、事前にJR側と停電手配の打合せをした後に計画を一部変更しましたが、うまく伝わっていませんでした。

工事指揮者は変更箇所が停電していると思い込み、当該の作業者に図面で指示しましたが、その箇所は通電していました。誰もが停電と認識し検電・接地もしていませんでした。作業者は停電していると思って通電中の架線に触れ、感電して命を落としてしまいました。救助活動の間も通電状態のまま、二次災害の危険もあったといえます。



4. 危ないと思ったら すぐに行動!



仕事の前に確認しよう!
仕事の合間に思い起こそう!

- 危険を感じたら列車を止めよう! 仕事をやめよう!
 - ・それは褒められる行為であり、絶対に責められることはありません。
- 危険や不安を見たり感じたら、すぐにそれを伝えましょう!
 - ・ヒヤリハットは積極的に報告してください!
 - ・それは次の事故を防ぐ大切な情報です!





なぜ必要なのか、何をするのか

作業を遅らせてはならない、叱られるかも知れないと心配して、危険や不安を放置したまま仕事を進めたり、事象を報告しなかったりすることはありませんか。危険を感じた時に列車を止めるのは勇気のいることですが、人命を守り安全を確保する賞賛すべき行為であり、絶対に責められることはありません。作業上の危険を想定し、いざという時に決断できる心構えを持つことも重要です。また、危険や不安を感じたまま作業を続けてはなりません。作業を中断し、安全を確保したり、不安を解消してから、自信を持って仕事に臨んでください。指揮者や責任者に相談することも大切です。

JR連合は、安全を優先する行動を高く評価します。安全のために列車を止めたり、作業を中断したりする行動は、高く評価される重要な対策だと確信してください。

- 危険を感じたら、ためらわず列車を止めてください!
- 危険や不安を感じたら作業を中断してください!

日頃の作業で危険や不安に感じることを指摘、報告することも重要です。所属、年齢、立場の違いなどでやりづらいケースがあるかも知れません。しかし安全確保のためには、勇気を持って指摘し、指摘を受けた側も素直に受け入れる姿勢が必要です。仕事で感じたヒヤリハットは積極的に報告してください。その報告が次の事故を防ぐ大事な情報となることもあるはずです。

- 立場や所属を超えて危険や不安な事象を指摘しましょう!
- ヒヤリハットは積極的に報告を! 解決できることは直ちに改善を求めましょう!



過去にはこんな悲劇が発生しています!

G車両基地構内における転落事故

当該の作業員は、雨の中、基地構内で電車の仕業検査で屋根上のパンタグラフとワイパーの検査をしていました。

架線（トロリー線）に安全帯のロープを架けて作業していましたが、運転台の前面ガラスのワイパーを点検する際、ロープが短く体が引っ張られるため、ロープのフックを点検台に架け直そうとしました。運転台の前は狭くて滑りやすく、危険な状態にありました。フックを外して架け直そうとした時、作業員はバランスを崩し、転落して骨折してしまいました。



5. とくに危険な四大労災を撲滅しよう!

〈触車・感電・墜転落・交通事故〉



仕事の前に確認しよう! 仕事の合間に思い起こそう!

● 触車事故を撲滅しよう!

見張りは作業者の命綱!

わずかな不安も必ず確認、危険を感じたら列車を止めよう!

線路には必ず列車が来ます!

線路の横断や線路内への立入時には、まず確認、とにかく確認!

● 感電事故を撲滅しよう!

必ず停電を確認! 停電だと指示されていても間違えることはありません!

絶対に検電・接地をしているかを確認しましょう!

活線近接作業では、停電箇所と通電箇所をしっかり確認!

通電箇所には絶対に触れてはいけません!

感電防止の絶縁用保護具と安全帯を正しく装着しましょう!

「見る」「見られる」ことを気にかけてよう! 危険を感じたら作業を止めよう!

● 墜転落事故を撲滅しよう!

保護具・安全帯は正しく装着を!

事故はロープの架け替え時に発生します。移動する時には絶対注意!

補助ロープ(命綱)で常に身体を守ってください!

「見る」「見られる」ことを気にかけてよう! とくに安全帯の相互チェックを!

危険を感じたら作業を中断! 危ないままで仕事を続けてはなりません!

● 重大交通事故を撲滅しよう!

徹夜明けが眠いのは当たり前!

眠気を我慢しないで、とにかく休もう!

スピードは控えめに、安全最優先で!

悪天候はとくに運転に気をつけよう!

一人より二人、声を掛けたり交代したり、居眠り防止が大事です!





過去にはこんな悲劇が発生しています!

1 駅構内における触車死亡事故

当日は濃霧の中、コンパクター（つき固め機）による道床のつき固め作業などを行う予定でした。作業前のKYTでも濃霧や作業による騒音で列車の進来に注意することが確認されました。

当該の作業員は、この日は見張り担当でしたが、道具を取りに行く途中、他の作業員から機械の不具合を聞き、これを修理しました。機械がうまく動いたため、動作状態を試そうと線路内に立ち入って作業をしたところ、濃霧の中から電車が進来して触車し、命を落としてしまいました。



【JR連合加盟組合】

JR北労組(ジェイアール北海道労働組合)

〒060-0011 札幌市中央区北11条西16丁目1-52

TEL 011-622-8131

JR東日本ユニオン(ジェイアール東日本労働組合)

〒108-0014 東京都港区芝5-33-36

TEL 03-3453-2107~8

JR東海ユニオン(東海旅客鉄道労働組合)

〒108-0075 東京都港区港南2-1-95 JR東海品川ビルB棟3F

TEL 03-6718-1251~2

JR西労組(西日本旅客鉄道労働組合)

〒530-0012 大阪市北区芝田2-1-18 西阪急ビル9F

TEL 06-6375-9869

JR四国労組(四国旅客鉄道労働組合)

〒760-0021 香川県高松市西の丸町11-9

TEL 087-851-1378

JR九州労組(九州旅客鉄道労働組合)

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目3-23 安田三井不動産ビル5F

TEL 092-472-7950

貨物鉄産労(日本貨物鉄道産業労働組合)

〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩2-5-1

TEL 03-5698-2082

JR連合(日本鉄道労働組合連合会)

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9F

TEL 03-3270-4590

「重大労災防止の行動指針」全文は

JR連合ホームページをご覧ください

<http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>